

令和7年度パネル展(会期：令和7年7月1日(火)～9月21日(日))

シルクロードの文化遺産 2

— 草原の道 —

Kyushu Historical Museum Exhibition guide

1 シルクロード・草原の道

かつてユーラシア大陸の東西は、シルクロードと呼ばれた交易の道で結ばれていました。中国大陸の都、長安(現在の西安)からヨーロッパへと至る道で、古来より様々な人・物・文化が行き交い、沿線には現在も数多くの文化遺産が残されています。

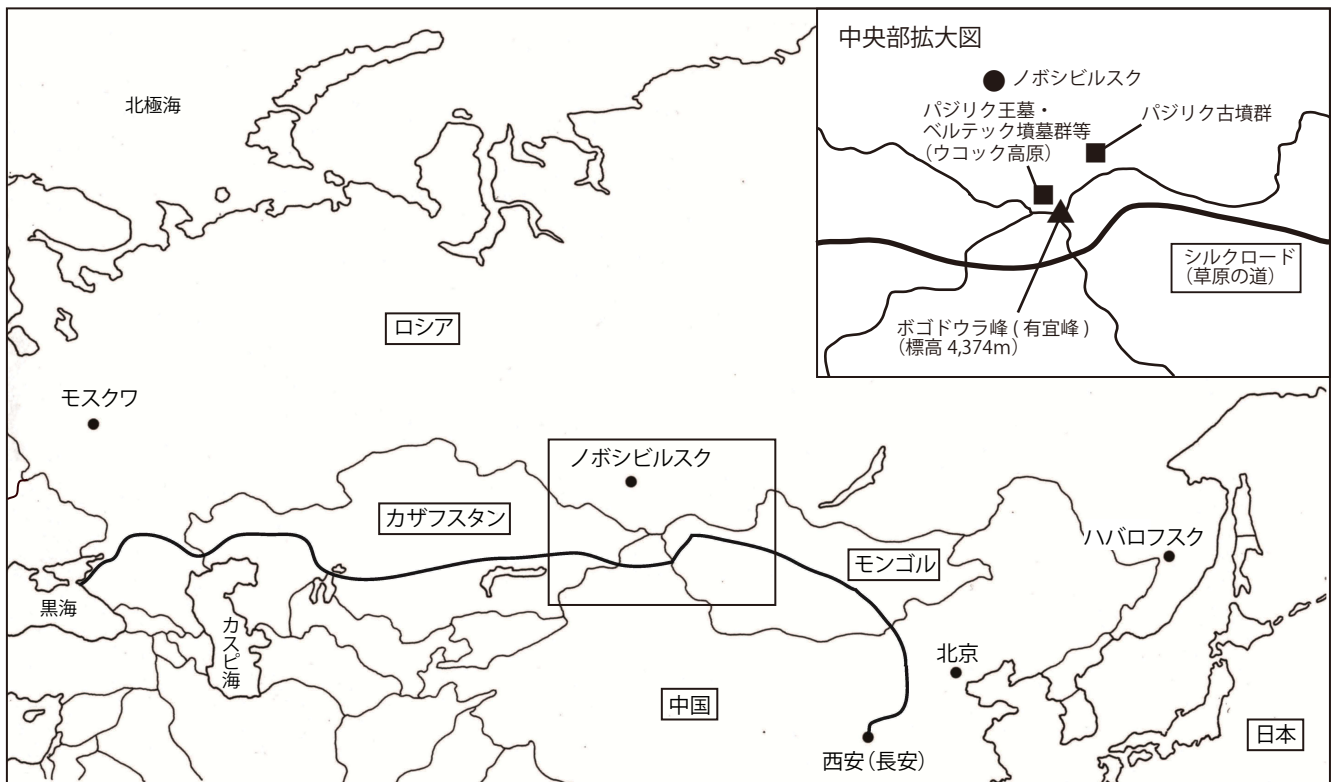
シルクロードのルートは、大別するとオアシスの道、海の道、そして草原の道の3ルートがありました。このうち、長安を出発すると北上し、モンゴルから中露国境付近を経て、カザフスタンを通り、中央アジアを辿って黒海沿岸に至る道が、草原の道です。シベリアの南側に広がるステップと呼ばれる乾燥地帯を経由しており、別名ステップの道とも呼ばれました。

本展ではシルクロードの文化遺産の内、草原の道を取り上げます。特にロシア・中国・モンゴル三国の国境付近に位置するアルタイ山脈地方一帯の文化遺産について、紹介します。

2 アルタイ山脈からウコック高原へ

現在、世界自然遺産に登録されているアルタイ山脈の周辺では、様々な時代の文化遺産が残されました。特に南シベリアに広がる山地アルタイ地方(ゴルノ・アルタイ)では、ネアンデルタール人の旧石器文化を伝える洞窟が発掘されています。また、アルタイ山脈の中で三国の国境に聳えるボゴドウラ峰(標高4,374m)は、古来神の住む聖なる山として崇められてきました。

このボゴドウラ峰から北西に約45km進んだ地点が、標高約2,200mのウコック高原です。この高原では複数の墳墓群が発見されたほか、岩礁に刻まれた岩壁画も見つかりました。高原を流れるアク・アラハ川(北極海までつながるオビ川の源流)の東側に立つ高さ10mほどの岩壁に、トナカイや羊、ラクダなど約30頭の動物が描かれています。またラクダを引く人や弓を構える人の姿も刻まれていました。これらは、紀元前8～7世紀ごろの、スキタイ初期の所産と推定されています。



シルクロード(草原の道)と周辺の国々

3 パジリク古墳群

ウコック高原とその周辺では、数多くの墳墓群が発掘されました。これらは、トルコ語でクルガンと呼ばれる積石塚で、1群2～12基からなる積石塚が100基以上認められています。主なものに、1991年に発掘調査が行われたパジリク王墓群や、1990年に当時の日ソ合同で調査されたアク・アラハ第1号墳があります。アク・アラハ第1号墳では、2基の木棺のほか、4頭の馬が埋葬されており、鉄・木・フェルト製の馬具も出土しています。馬具には魚や羊など、豊富な装飾モチーフが見られました。

さらに、ウコック高原から北方約200kmの地点には、パジリク古墳群（パジリク王墓群とは別）があります。26基の古墳が分布し、1929年および1948～1949年に、当時のロシア博物館の教授らによって発掘されました。発見された馬具類には、黒海沿岸のスキタイ文化（紀元前5世紀～4世紀）で知られる動物文様などが見られ、アルタイにおけるスキタイ系文化を示すものとして知られています。

古墳の形は1929年に発掘された第1号墳の場合、直径が30～50m、高さ2m以上の大型の円墳です。元の地表から3～4mの深さに墓室が設けられ、木棺と各種の副葬品が収められていました。第2号墳では、男女各一体のミイラが発見されましたが、男性の身体には種々の怪獣の入墨が施されていました。



ウコック高原の岩壁画の細部



パジリク古墳群の分布状況



ベルテック 第34号墓の発掘風景



ウコック高原の積石塚群



パジリク古墳群の近景



ベルテック 第34号墓出土の銀製壺

4 ベルテック墳墓群

ウコック高原の墳墓群からもう一つ、ベルテック墳墓群を紹介します。この墳墓群は、紀元前3000年～2000年頃のアファナシェボ文化の時代に築かれたものが主となります。アファナシェボ文化は、アルタイ地域を中心に南シベリアに住んでいたヨーロッパオイド系人が残した文化で、初期小麦農耕と北アジア初の金属器（銅）の文化を持っていました。

ベルテックの第33号墓は、直径約4mの積石塚で、ヨーロッパオイド系の身長約185cmの男性が埋葬されていました。副葬品には、羽状文で飾られた土器などのほかに、長さ24cmの石棒があります。この石棒には、隕石に含まれていたと思われる直径約2mm程の隕鉄が7か所に象嵌（そうがん）されていました。

また、ベルテック墳墓群の積石塚には、時代が下った6～8世紀頃の突厥（チュルク）の墳墓も含まれています。その一つ、第34号墓では、アク・アラハ第1号墳と同様に、人骨と馬の骨格が検出されました。馬は、轡（くつわ）や輪鐙（わあぶみ）などの馬具が装着された状態で検出されています。人骨付近からは、銅製のビーズ玉が付いた耳飾りと櫛、中国製の銅鏡、そして銀製の壺などが発見されています。銀製の壺は極めて珍しいもので、把手の上部には、パルメット文様が鋳出されていました。

（執筆：名誉館長 西谷 正）

（編集：文化財企画推進室 渡部邦昭）



編集

発行：令和7年7月1日

九州歴史資料館
KYUSHU HISTORICAL MUSEUM

〒838-0106 福岡県小郡市三沢 5208-3
TEL 0942-75-9575 FAX 0942-75-7834
URL <https://kyureki.jp>